

# かすみがうら

## 子宮頸癌とHPVワクチン

### 産婦人科医長 高野 克己

第97号  
 <毎月1日発行>  
 発行所  
**電ヶ浦医療センター**  
**かすみがうら編集局**  
 〒300-8585  
 土浦市下高津2-7-14  
 Tel 029-822-5050  
 Fax 029-824-0494  
 E-mail & Web Site  
 kasumi@kasumi.hosp.go.jp  
 http://www.hosp.go.jp/  
 ~kasumi/

最近、インフルエンザが流行し話題となっています。インフルエンザがウイルスの感染で起こることは有名となり、ご存じでない方はほとんどないことかと思いがすが、実はほとんどの子宮頸がん(子宮の入り口にできる癌)の発症にもヒトパピローマウイルス(Human papilloma virus:以下HPV)というウイルスが関与していることが明らかとなつていま

す。インフルエンザにA、B型、さらに香港、ソ連型などのさまざまな型があるように、HPVも現在、100種類以上の型があることが知られています。HPVはもとと疣(イボ)を作るウイルスです。皮膚を好んで感染するタイプと粘膜(口の中や膣などを覆う皮)を好んで感染するタイプに大別できます。皮膚に感染する病気に疣ができるコンジローマという病気です。主に粘膜に感染するタイプののうち15種類ほどが子宮頸がんなどの発がんに関係する発がん性HPV(ハイリスクタイプ)のH

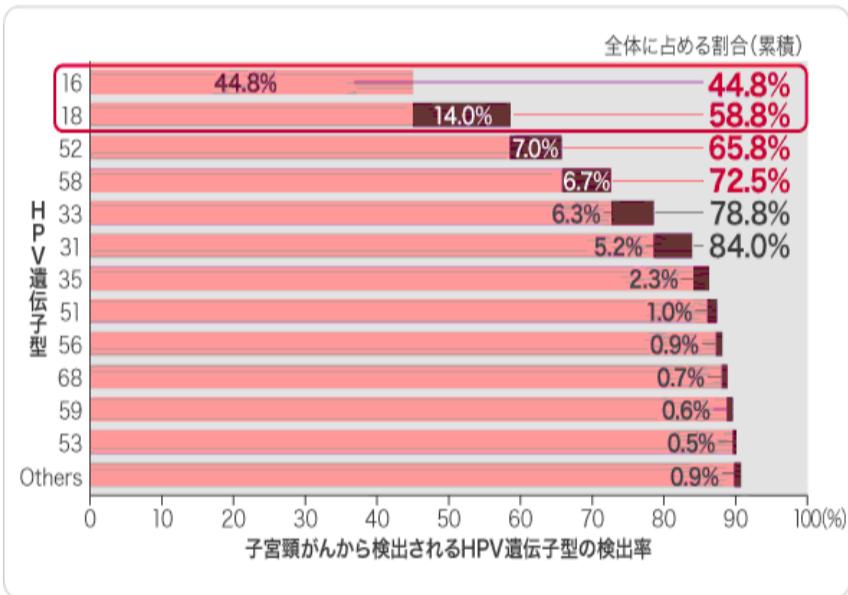
PVと呼ばれています。ハイリスクタイプはHPVと広く認知されている遺伝子型のうち、子宮頸がんで見られる型のほとんどは16、18型です。しかし、日本では海外と比べると、16型の検出頻度がやや低く、52、58型の検出頻度が高いという特徴があります(図1、2)。WHOによ

り、HPVは子宮頸部の粘膜(扁平上皮)に感染します。インフルエンザは感染後ウイルスが増え、1週間ほどの潜伏期のうちに発病しますが、HPVは感染しウイルスが増えても免疫の作用により、ウイルスが排除されれば病気を引き起こすこともありません。ウイルスが排除されずに長期に感染していた場合、異形成と呼ばれる前癌病変を経て子宮頸がんになります。子宮頸がんになるまでには5~10年以上の期間がかかるとされています。つまり、大事なことはHPV感染がイコール子宮頸がんでは

ないということです。世界保健機関(WHO)によると、全世界において年間3億人がハイリスクタイプのHPVに感染するものの、そのうち子宮頸がんを発症するのは45万人と推定されています。これはハイリスクタイプのHPV感染者のわずか0.15%に過ぎません。

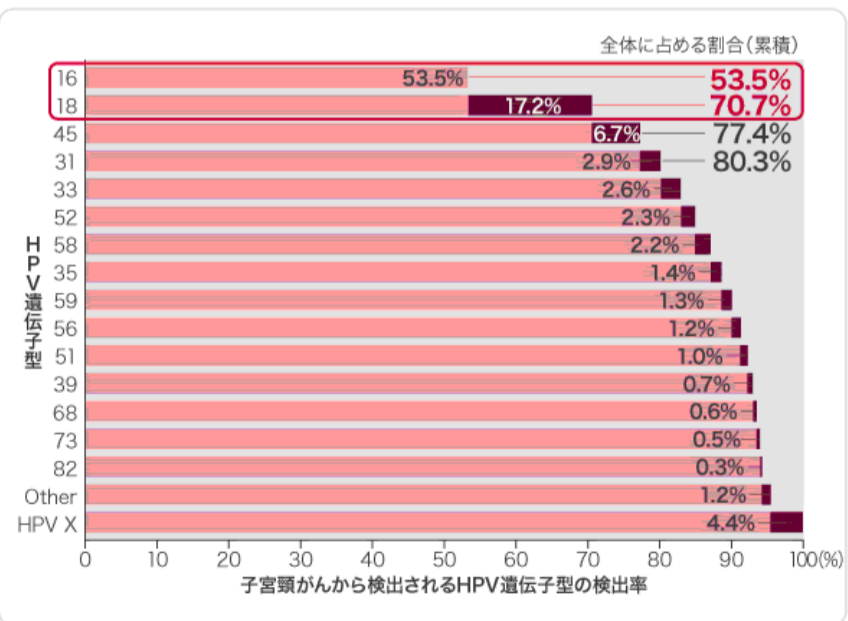
### 発がん性HPVの遺伝子型

図1: 日本における子宮頸がんに関連する発がん性HPVの遺伝子型



Miura S et al : Int J Cancer 119 (11) : 2713-2715, 2006

図2: 海外における子宮頸がんに関連する発がん性HPVの遺伝子型



Munoz N et al : Int J Cancer 111(2) : 278-285. 2004  
glaxosmithkline ホームページより引用



感染(咳や鼻水)で伝播していきませんが、HPVは性行為によって感染、伝播していくことが明らかとなつています。新型インフルエンザに対するワクチンの生産量がこの秋に間に合うかという話題もあがっていますが、HPVについても感染を予防するためのワクチンの開発が進み、すでにオーストラリアを始め世界80カ国以上でHPVワクチン接種が始まっています。現在、海外で利用できるワクチンはメルク・万有製薬社のガーダシル(米国など109カ国で承認)だけですが、今年中にはグラクソスミス・クライン社のサーバリックスが米国で承認される予定です。どちらのワクチンもすべてのハイリスクタイプのHPVに有効なわけではありませんが、ガーダシルは6、11、16、18型に、サーバリックスは16、18型に対するワクチンです。6、11型HPVはコンジローマの原因となるウイルスです。ガーダシルは性行為感染症である尖圭コンジローマにも有効です。これらのワクチン投与により、欧米では子宮頸がんの80%を予防できることが期待されています。

インフルエンザのワクチンもそうであるように、HPV感染の予防のためにはワクチン接種は感染の前が原則となります。

我が国では2006年から2種類のワクチンの臨床試験が行われてきて、今年中にはワクチンが承認される段階まで来ましたが、しかし、ワクチン接種が公費負担による定期予防接種(予防接種法に基づく)になるのか、個人の負担による任意予防接種なのかも決まっています。また、先ほど

つまり、感染の原因である性行為が行われる以前であることが理想的となり、優先すべき接種対象は11~14歳の女子とされています。一方、すでにHPVに感染してしまっている女性にワクチン接種を行った場合でも、ワクチンは、既に感染したHPVに対しては、発病の予防効果がないだけで、悪影響はなく、その他の型の感染予防には効果があるため、15歳から45歳の女性も次にワクチン接種すべき対象として考えられています。

述べましたように、日本では子宮頸がん発症に関わるHPV遺伝子型は欧米と比較し、16、18型がやや少なく、52、58型が多いという特徴があり、すべての女性が現行のHPVワクチン接種を受けたとしても、子宮頸がんの予防率は70%前後とされ日本独自のワクチン開発も望まれていません。いずれにしろワクチン接種ですべての子宮頸がんがなくなるわけはありません。海外では子宮頸癌検診受診率が80%を超えています。日本では癌検診受診率が20%前後と極めて低

い状態です。子宮頸癌は、罹っても早期に見れば治る病気です。今後ワクチン接種が開始されても、その多大なる恩恵にあずかれるのは、HPV感染前の女子です。すでにHPV感染前をしていいる可能性のある女性は子宮がん検診を受け、早期発見、早期治療を受けることが大切であると考えられます。



「当院の新型インフルエンザに対する体制と、予防について」

感染管理認定看護師 菅野 勝司

今年4月にメキシコで最初の患者が確認されたから、わずか数ヶ月。皆様もご存知の新型インフルエンザが、日本のみならず世界各地で猛威をふるっています。当院におきまして、重症化する恐れのある妊娠されている方、基礎疾患をお持ちの方がインフルエンザにかからないようにするため、8月10日から新しい対策を外来において実施しています。主な取り組みとして、妊婦検診に来られた方は、地域医療研修センター棟の入り口からお入りいただき、受付などを直接参加外来で行っていただく。発熱で来院した方は発熱患者診察室で診察を受けていただく等、出来る限り発熱させられている方とそつでない方(特に妊娠されている方)との接点を少なくしようというもので

す。今年の秋冬期にかけて、新型インフルエンザの患者数が現在よりもさらに増加するとの専門家の意見があり、季節性のインフルエンザも合わせると、どの程度の規模の流行になるのか、全く予測が付きません。しかし、恐れられているだけではいけません。感染を予防するために適切な行動をとることで、感染するリスクを下げる事が出来ます。テレビやその他報道等で、もうご存知のことも多いと思いますが、次の予防法を是非実施していただければと思います。

流水と石鹸で手をこまめに洗う。特に、外出から戻ったときなど、人と接するような場所へ行ったときには十分に手洗いを行ってください。今いるいるなところで見られるアルコール消



『ミンミンゼミ』



夏になると、病院の周りではたくさん蝉の声を聞くことができます。ほとんどは『アブラゼミ』ですが、お盆を過ぎて暑さも和らいだ頃から『ミンミンゼミ』の声も多くなることが出来ます。調べてみると、ミンミンゼミは暑さに弱く、全国的にも涼しい所に生息しているのだそうです。皆さんはご存じでしたか? 当院のミンミンゼミも、涼しくなるまで出番を待っていたのでしよう。

そして、『ツクツクボウシ』の音が聞こえたら、今年ももう秋ですね。

この予防法は、家庭でも十分に行えると思いますので、是非実施していただければと思います。

また、入院している患者様は、非常に免疫力の弱まっている方が多いです。ご面会される時に、発熱がある、咳・くしゃみがよく出る、頭痛がある、下痢・嘔吐がある等症状の見られる方は、院内での感染拡大防止のため、ご面会を中止していただくよう、ご協力よろしくお願いいたします。

咳・くしゃみが出る場合には、他のひとにそのしぶきを浴びせないようにするため、ティッシュペーパーなどを使って鼻・口を覆う、マスクを着用するといった咳エチケットを行ってください。マスクは、鼻・あごまでしっかり覆うように着用することがポイントです。咳・くしゃみなどが出ない人が予防的に着用することも必要かとは思いますが、基本的には咳・くしゃみが出る人がしっかりと着用をすることで、感染の拡大を防げると思います。マスクの素材に関しては、薬局などで売っている不織布のものが理想的ですが、この冬は現在よりもさらに品薄となる事が予想されますので、ガーゼマスクの着用でもかまわないと思います。ただし、洗濯はまめに行ってください。

今月の一品料理 『豚しゃぶごまだれ』

栄養管理室

材料(4人分)

豚ロースしゃぶしゃぶ用	300g
ゴマだれ	8g
ねりごま	20g
玉ねぎ	6g
みりん	6g
しょうゆ	1g
砂糖	4g
酒	4g
ごま油	2g
付け合わせ	4g
レタス	1g
にんじん	6g
きゅうり	6g
トマト	8g



【エネルギー 1人前230kcal】

作り方  
豚肉は沸騰したお湯にさつと入れ、色が変わったら取り出し水分を切る。  
付け合わせのキャベツ、にんじんもさつとポイルする。  
ごまだれの材料を混ぜ均一にする。  
器に を盛り付け、 をかける。  
付け合わせの野菜は、お好みのものでどうぞ。

豚肉は、夏バテ予防に効果のある、良質なたんぱく質とビタミンB1を多く含んでいるのが特徴です。ビタミンB1は、エネルギーをつくるのに必要な栄養素で、疲労回復にも効果があると言われています。残暑に負けないよう、さっぱり食べやすい夏バテ予防メニューを是非お試しください。

このメニューは当院9月12日夕食のメニューでお出しする予定です。



9月集団指導のご案内

減塩教室(第3木曜日)  
午後2時から 第4会議室  
16日  
『外食の塩分量はどれくらい?』  
管理栄養士

糖尿病教室  
(第1・第3・第4火曜日)  
午後3時から 第4会議室  
1日  
『食欲の秋! 食べ過ぎに注意しましょう。』  
管理栄養士

8日  
『運動療法について』  
理学療法士

15日  
『減らせ血糖、減らす歯数』  
歯科口腔外科医師

公開市民講座のお知らせ

会場/地域医療研修センター 講堂  
日時/9月7日 午後2時

『子宮頸癌について』

外科系診療部長 新井ゆう子  
予約の必要はありません。お気軽にお越しください。